

ホタテガイ養殖管理情報

異常貝が多い場合は耳吊りに向きません

まもなく耳吊り作業が始まります。以下の点に注意して作業を行ってください。

1 異常貝とは？

外套膜（通称、ヒモ）に傷ができて、そこから出血した血が固まったものが内面着色です。貝殻は外套膜で作られますが、外套膜に傷ができるとその部分で貝殻が作れなくなるため、欠刻になります。

いずれも異常貝の原因は病気ではなく、“ケガ”です（図1）。

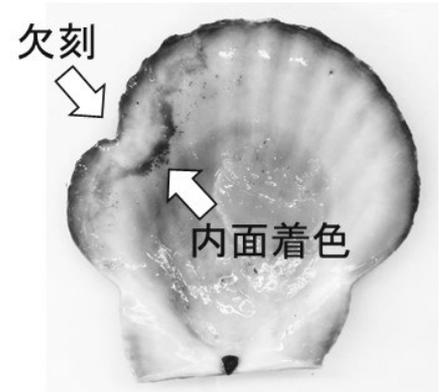


図1 異常貝

2 耳吊り作業の注意点

(1) 耳吊りする貝

ひどい欠刻貝が見られるネットから、正常に見える貝や軽い欠刻貝を選んで耳吊りしても、3～4割がへい死することが分かっています（図2）。

これは外套膜（ヒモ）に見た目では確認できない傷を負っている貝（通称：異常貝予備群）があるためと考えられます。

異常貝が5%以上ある場合は耳吊りに向かないことから、見た目の欠刻だけでなく、内面着色も調べて、耳吊りするかどうかを判断しましょう。貝が小さいと穴を開ける時に外套膜（ヒモ）を傷つけやすいことから、成貝向けの場合には特に殻長6cm以上の貝を用いるようにしましょう。

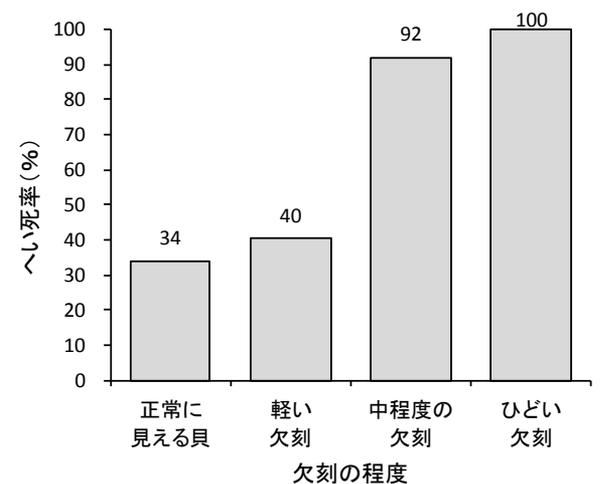


図2 欠刻の程度による耳吊り後のへい死率（3月に耳吊りし、7月に測定）

(2) 穴を開ける位置

外套膜（ヒモ）を傷つけないように穴を開けましょう。

穴の位置は図3のとおりで、○の1枚開けが最適です。2枚開けの場合は△に開けるようにし、▲や×は異常貝が多く、成長不良になるので止めましょう。

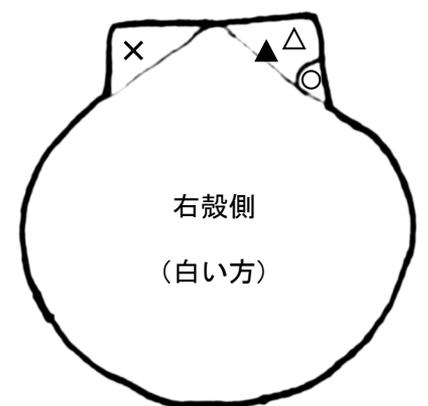


図3 穴を開ける位置

(3) その他の注意点

- ① 時期が遅くなると異常貝や死貝が多くなるので、耳吊り作業は4月いっぱいで終わるようにしましょう。
- ② 凍結する危険性があるので、気温が氷点下の場合は、作業を見合わせるようにしましょう。
- ③ ホタテガイは乾燥に弱いので、作業場では手早く作業を行うようにしましょう。
- ④ 耳吊り後の貝はかみ合わせや餌不足で活力が低下するので、水槽や船べりに長く置かないようにしましょう。
- ⑤ ホタテガイは真水に弱いので、斜路や船べりに貝を置く場合は、漁港内の排雪や河川水に注意しましょう。

